

2019年 第4回常任幹事会 議事録

日時：2019年12月6日（金）10:30～11:50

場所：大阪科学技術センター 7階 700号室

出席者（敬称略）：茶山（甲南大）、石濱（京大）、川崎（関大）、久本（阪府大）、吉田（京都工繊大）、永井（産総研）、末吉（阪府大）、牧（神大）、高原（リガク）、安川（兵庫県大）、糟野（龍谷大）、北隅（京大）、橋田（大塚電子）、松本（和歌山工技術）、森澤（近大）、山口（大阪薬大）、大城（阪大）、奥田（島津テク）、東海林（阪市大）、中山（住電プリントサーキット）、鳥羽（サントリーMONOZUKURI エキスパート）

1. 前回議事録について

2019年第3回常任幹事会の議事録（資料No.1）を確認した。

2. 本部関係報告

石濱本部副会長より、幹事会資料No.2に基づき、2019年度第4回理事会の内容として、2021年度より「ぶんせき」誌を電子化することが決定され、冊子体については希望者のみに有償で提供されるが、一般会員の会費は値上げされないことが報告された。

また、上期の会計として、昨年度と同様赤字であり、今年度通期としても赤字の見通しであることが説明された。ちなみに、今年度から年会の参加費について増額したが、参加者の減少もなく、例年以上の増収となったものの、さらなる効率化を目指して、支部を含め、事務局経費を含めて予算立案する方針に変更されることが報告された。

さらに、8月末から学会HPが刷新されたこと、また、企画戦略会議にて、事業縮小に向けた施策について議論されていることが説明された。

以上に対し、川崎副支部長より、事業縮小の内容について質問があり、石濱本部副会長から、今後TFの立ち上げによって、学術誌数や標準物質の管理、認定試験、学術会議等、会員数に合った事業規模について議論される方針との回答があった。牧会計幹事からは、本部人件費の削減についての方策に関する質問があり、石濱本部副会長より、雇用計画の整理を進める意向であることが説明された。また、久本副支部長より、予算計画における事務局経費の考え方について質問があり、石濱本部副会長より、概要説明がなされた。

最後に、茶山支部長より、次の近畿支部担当の年会では、本部に依存しない開催の形について今後議論していきたいとの提案があった。

3. 2019年度 支部事業中間報告

幹事会資料No.6に基づき、吉田庶務幹事より、事業計画の中間報告があり、提案公募型セミナーが本年3回開催されたこと、役員選考委員会ならび学会賞等支部推薦委員会の開催について説明され、現在、次年度の事業及び予算が計画されていることが報告された。

(1) ぶんせき講習会

幹事会資料 No. 7に基づき、久本委員長から、11/29に発展編を兵庫県立大学にて開催し、これまでに開催した基礎編（その1）、基礎編（その2）、実践編の全ての講習会における参加者数について報告された。なお、次年度以降の講習会の取り組みについて、支部としての事業の継続性を見据え、採算性を考慮し、基礎編の複数開催など、将来の講習会の方向性を議論していることが説明された。

また、安川委員より、次年度について年4回の開催を予定しており、基礎編（その1）を5/15に、基礎編（その2）を6/19に、実践編については7/10に開催予定であり、講師について決定したことが報告された。また、発展編について、日時は未定であるが半日の開催を計画していることが説明された。これに合わせ、基礎編（その1）ならびに基礎編（その2）の会告の掲載依頼について承認された。さらに、各講習会の予算案について説明があった。

吉田庶務幹事より、今後の発展編の取り組みについて質問があり、安川委員より、継続して議論中であることが説明された。また、大城委員より、他学会との協賛等に関する質問があり、安川委員より必要に応じて検討するとの回答があった。

(2) 支部講演会 WG

幹事会資料 No. 9に基づき、責任者の塚越委員に代わり、吉田庶務幹事より、第1回を4/12に大阪産業技術研究所の河野宏彰先生ならびに京都大学の梅谷重夫先生の講師にて行われ、第2回を7/19に大阪科学技術センターにて、理化学研究所の川井隆之氏ならびに産総研の永井秀典氏の講師にて行われたことが報告された。また、第3回を12/6に同じく大阪科学技術センターにて大阪薬科大学の天満敬先生ならびに京都大学の加納健司先生により開催する予定であることが説明された。次年度については、4/10に第1回を原子力機構の下条晃司郎先生ならびに京都薬科大学の北出達也先生の講師にて開催予定であるとの説明があった。

また、茶山支部長より、次年度の第2回以降の講師候補として、退職予定の方について情報提供の依頼があった。

(3) 提案公募・セミナーWG

幹事会資料 No. 10に基づき、責任者の山口委員より、今年度は3件の提案公募型セミナーを実施し、第1回を7/24に近畿大学にて、第2回を10/21-22に大阪市立大学にて、第3回を11/22に京都工芸繊維大学にて開催したことが報告された。また、本年度より、援助金額として、1テーマ当たり上限5万円を年間3テーマ程度とし、これを超える場合には別途協議する方針が確認された。

(4) ホームページ&分近ニュース WG

幹事会資料 No. 11 に基づき、責任者の松本委員より、ぶんきんニュースの第 46 号を 4/26 に、第 47 号については 9/24 に発行したことが報告された。第 48 号については 2020 年 1 月に発行予定であることが報告された。また、近分懇の会員企業まで無料広告として 1 社掲載されたことが報告された。

(5) 第 13 回近畿支部夏季セミナー

幹事会資料 No. 12 に基づき、責任者の森澤委員から、8/1-2 に四條畷市のアイ・アイランドにてぶんせき秘帖 巻ノ拾参を開催し、参加者数として学生が 49 名、一般が 12 名、講演者が 5 名の合計 66 名であったことが説明された。なお、ポスター発表件数として 44 件の内、ポスター賞として 6 件であったことが報告された。

久本副支部長より、収支について質問があり、資料 No. 14 に基づき若干の赤字であり、若手基金の取り崩しは不可欠な状況が確認された。

また、次年度の開催について、東海林委員より、淡路島の津名ハイツを仮予約中であり、参加者数が 80 名を超えると貸し切りが可能となること及び、特別講演として大阪市立大学の辻幸一先生に承諾を得ていることが説明された。

なお、茶山支部長より、若手基金の取り崩しについて 12/17 の理事会にて審議予定であることが説明された。

4. 2019 年度 近畿分析技術研究奨励賞選考結果報告

吉田庶務幹事より、近畿分析技術研究奨励賞選考委員会から、奈良県薬事研究センターの西原正和氏ならびに、紀本電子工業の北山紗織氏の 2 名の候補者の推薦があったことの説明があり、全会一致で承認された。

5. 2019 年度 支部会計中間報告

資料 No. 2 に基づき、牧会計幹事より、正味財産増減計算書について本部決算額ならびに支部決算額にて相違があるが消費税の有無により相違があることについて説明があった。また、前年度実績との相違について、前年度に夏季セミナーを中部支部と共同開催し、かつ 65 周年記念事業を実施したためであることが説明された。なお、本年度より、幹事会等開催後の懇親会について、雑収入として会計に組み込まれていることが報告された。

6. 2020 年度 支部役員体制

幹事会資料 No. 15 に基づき、茶山支部長より、役員選考委員会の結果として、次期支部長に兵庫県立大学の村松康司氏が、新任の常任幹事として、石切山一彦氏、大阪大学の岡本行広氏、京都教育大学の向井浩氏、紀本電子工業の北山紗織氏、理化学研究所の川井隆之氏、近畿大学の山本佐知雄氏、甲南大学の岩月聡史氏、日立ハイテクサイエンスの山口英一氏が、新任の参与として京都大学の加納健司氏が、新幹事として、信和化工の小林宏資氏、京大化研の下赤卓志史氏、サントリー-MONODUKURI エキスパートの鳥羽真由子氏、

堀場アドバンステクノの西尾友志氏が、支部選出の分析化学誌編集委員として、京都大学の久保拓也氏、Analytical Sciences 誌編集委員として、関西大学の壺井基裕氏が選出されたことが報告された。

7. 2020 年度 支部事業計画案

資料 No. 16 に基づき、永井庶務幹事より、次年度の事業計画案について報告があった。7/17 に計画している第 3 回常任幹事会及び第 2 回幹事会、第 2 回支部講演会の会場については、大阪科学技術センターを予約しているが、賛同企業があれば会場変更の可能性もあるとの説明があった。

また、茶山支部長より 7/17 の会場について補足があり、以前は機器分析講習会の開催企業において行われていたが、その場合には企業側に負担をかけてしまうことや、さらに、参加者の交通費の対応のため、合同事務局側にも出張が発生する実情が説明された。これを受け、安川委員からも、ぶんせき講習会の会場となる企業において、セキュリティの観点から、講習会とは別に、多人数を受け入れる対応は困難を伴うことが補足された。

8. 2020 年度 支部予算案

資料 No. 17 に基づき、高原会計幹事より、次年度の事業予算案について報告があった。昨年度の予算見込額に基づいているが、ぶんせき講習会（基礎編その 1）ならびに、ぶんせき講習会（基礎編その 1）のみ 2018 年度を基準にしていることが説明された。また、交通費の支払い方法について、本年度は、常任幹事会と幹事会の開催日毎ではなく、最後の幹事会にて一括払いすることとしたが、かえって事務局の負担増となることが明らかとなり、次年度以降は、開催の都度、支払う方法に変更することが説明された。さらに、事務局の負担低減の方法として、各講習会等の収支の管理において、項目別の記入シートを活用することが提案された。それから、提案公募型セミナーの予算については、源泉徴収額を含めることが確認された。

9. その他

(1) 合同事務局運営委員会報告

資料 No. 18 に基づき、茶山支部長から、事務費負担割合を 5 年毎に見直しており、第 2 回合同事務局運営委員会において、負担割合は現状維持となることが報告された。

(2) 2020 年度代議員候補者推薦について

茶山支部長より、役員選考委員会において、近畿支部の推薦として分野の偏りが無い様に 18 名選考されたことが報告された。

(3) 2020 年度 学会賞等各賞候補者推薦の件

茶山支部長より、学会賞等推薦委員会の検討の結果として、奨励賞に 4 名、技術功績賞

に企業から1名，女性 Analyst 賞に2名，先端分析技術賞（JAIMA 賞）に1名を推薦することとし，学会功労賞については推薦者なしであったとの報告があった。

（4）共催，協賛など

幹事会資料 No. 19 に基づき，茶山支部長より，X 線分析研究懇談会第 270 回例会についての説明があり，協賛について承認された。

以上